

国内銅需給は引き締まり気味

自動車の動向に注視、販売急減で
慢性的スクランプ不足

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

■概況

四月前半は中国國家統計局発表の三月中旬製造業PMIが五〇・三に上昇したことや、ドラギECB総裁が低金利継続を示唆し、追加の緩和に含みをもたらすこと、FRBの議事録要旨で早期の利上げには懸念を表明している内容だったことなどプラス材料もあつたが、三月のHSBCのPMI指数が四八と予測を下回ったことによる中国の大型景気対策期待の後退や、米雇用統計で非農業部門雇用者数が一九・二万人の増加と事前予想の二〇万人増は下回ったこと、三月の米非農業部門雇用者数は一九・二万人増加、予想の一〇万人増を下回るなどマイナス材料を嫌気しLME銅相場は下落、六、六四五ドル(セツル)と前月最終価格より二二ドル下げての前半締めとなつた。

後半は三月の中国通貨供給量が前年比一二・一%増加にとどまり、中国人民銀行の目標とする一三%増加を下回ったことによる景気後退懸念や、米国が五、〇〇〇万ドルの対ワクライナ追加支援を行うなどのウクライナ情勢の再燃などマイナス材料もあつたが、中国国家統計局が十六日に公表した一~三月期の実質国内総生産(GDP)の伸び率が前年同期比七・四%増と市場予想をやや上回った事、三月の米鉱工業生産指数は前月比〇・七%上昇、予想の一〇・五%上昇を上回った事などを好感し、ME銅相場は上昇、五月七日現在、前半締めから九五ドル上昇の六、七四〇ドル。銅建値七三万円のスタートとなつた。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)

一〇三・一七→一〇三・五九(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一四%増の九三万九、七六一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一一・四%減の一八万八、八六四台。

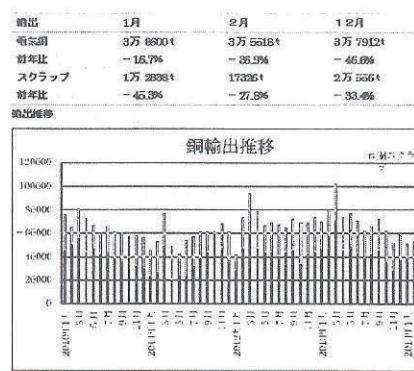
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数

数は前年比二・九%減の六万九、四一二戸であつた。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が四六・六%減の三万七、九一二t、スクラップが三三・四%減の二万〇、五五六t。輸入は電気銅が前年比三六三・四%増の七、四九八t、スクラップ四〇・三%増の八、二〇六t。



日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比一〇・五%増の七万〇、〇三〇t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は前年比九・二%増の六万三、九〇〇tであつた。

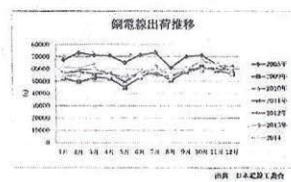
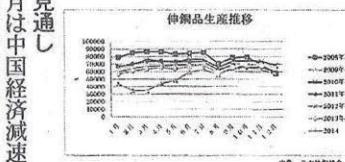
(六面へ続く)

(昭和33年5月10日)
(第三種郵便物認可)

(6) 第15368号【日刊・月曜・日曜・祝日・休日休刊】

平成26年5月10日(土曜日)

(四面より続く)



■見通し
四月は中国経済減速懸念およびウクライナ情勢の緊迫化に一喜一憂した月となつた。

自動車生産は九三万九千台、前年同月の八二万四千台に比べて一一万五千台、六四七台・一四・〇%の増加となり、七月月連続で前年同月を上回った。このうち、乗用車八〇万五千台、四六九台で一〇万四千五百六台・一四・九%の増加となり、七月月連続のプラス。トラック一・二万台、〇九九台で一万〇千台・九・五%の増加となり、九力月連続のプラス。バス一千一、一九三台で四三三台・四・〇%の増加となり、四力月連続のプラス。

三月の国内需要は七八万二千台、三八九台で、前年同月比一七・四%の増加。輸出は前年同月比〇・六%の減少。(実績)

販売の方は八力月ぶり減少の四八万台、〇三九万台で、前年比一四・五%増。このうち乗用車一六・九%減、貨物七・八%減、バス二八・六%減。新設住宅着工戸数は一九力月ぶりの減少、前年比二・九%減(季節調整済み前月比二・六%減)の六万台、四一二万台。

消費マインドの改善等もあって、堅調に推移してきたが、足下では、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって、減少している。

(持家)
前年同月比では二力月連続の減少(前年同月比一三・〇%減、季節調整値の前月比八・五%減)。

(貸家)
前年同月比では一三力月連続の増加(前年同月比一・二・三%増、季節調整値の前月比二・一%減)。

(分譲住宅)
前年同月比では二力月連続の減少(前年同月比一三・四%減)。

前年同月比では二力月連続の減少(前年同月比一五%減、季節調整値の前月比八・八%増)。

(分譲マンション)
前年同月比では二力月連続の減少(前年同月比一七万台超え)。

伸銅品生産は前年比一〇・五%増の七万台、〇三〇t、九力月連続前年超え、平成二十三年七月以降の品種別では銅条二万台、六五〇tで一二・五%増、黄銅棒一万台、六〇八tで一〇・一%増。

銅電線出荷量は、前年比九・二%増の六万台、九〇〇t。このうち、国内九%増、輸出が一三・六%増。

部門別では通信一四・六%減、電力二七・五%減、電気機械四・八%増、自動車一三・七%増、建設電販一八・七%増、その他内需一一・三%増。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比四六・六%減の三万七千九一二t。銅スクラップは三三・四%減の二万〇千五五六t。

ドル円は一〇二円台で変わらずだが、発生難好調な需要を背景に国内需要家が原料手当を急いでいたため電気銅スクラップ輸出は減少した。

輸入は電気銅が三六三・四%増の七千四八t。スクラップは四〇・三%増の八千一〇六t。

円高が続いている事や、国内発生屑の減少及び価格の下落による原料の出し渋りから、代替品として輸入品が大幅増加した。

〔銅価格に関する〕

住宅関連は新設住宅着工数が前年比二・九%減と一九力月ぶり減少。持家二三%減、貸家は一・三%増だが、分譲マンション一三・四%減と大幅減少。消費税率前の駆け込み需要も終了したのか、前月の一%増からついで一九%減と減少。来月の動向に注視したい。

自動車は生産が七月月連続上昇の一四%増。ただし四月の国内販売台数が前年比一一・四%減と大幅減。

販売が急減した四月以来の生産を注視。

前月に続き消費税率前の駆け込み需要の反動から住宅、自動車需要の二本柱が減少傾向にあり、共にどの水準で落ち着くか注視したい。

為替が前月から引き続き一〇二・一〇三円近辺と円高が継続している事や、建値が相変わらず七三万台で停滞している事から前月に続き四月から発生が期待されていたスクラップも塗潰け状態になつてゐる。駆け込み需要は終了した感はあるが、慢性的なスクランプ不足も加わり需給は縮まり気味。

〔銅価格に関する〕

今月も中国の動向に注目される。中国HSBC製造業PMI改定値は四八・一に下方修正。ただし前月からは小幅上昇。四月の国家統計局発表の中国製造業購買担当者指数が五〇・四と予想の五〇・五を下回つたが前月の五〇・三は上回つたこと。また中国人民銀行は、微調整を伴う稳健かつ安定的な金融政策を実施することを表明したことからセントメントも改善したと判断。

ウクライナ情勢に関しては予測とは一転、親露派とウクライナ派の対立が今まで続いていることから長期戦になる可能性が高い。
それらを踏まえた銅価格。上値は、中国PMI指数が国家統計局、HSBCとともに五〇を超える改善が見られ、ロシアがウクライナからの撤退及びそれに準ずる行為をした場合、四月高値のもう一段高の六千九〇〇ドルを予測。いずれかの場合六千八〇〇ドル。いずれか下値は再び中国PMI指数が共に五〇を割り込む水準となり、ウクライナ情勢の緊迫化が続いた場合、四月後半もう一段安値の六千五〇〇ドル。いずれかの場合は六千四〇〇ドルを予測。

為替TTSは中国PMIの改善やロシア軍の撤退が行われた場合、下値はドルユーロ高田安から三月安値の一〇三円台。上値は景気対策も撤退行わなかつた場合、失敗感から一〇・一円まで円高が進むとの予測。
銅建値に関しては六九〇・七六〇円程度と予測している。